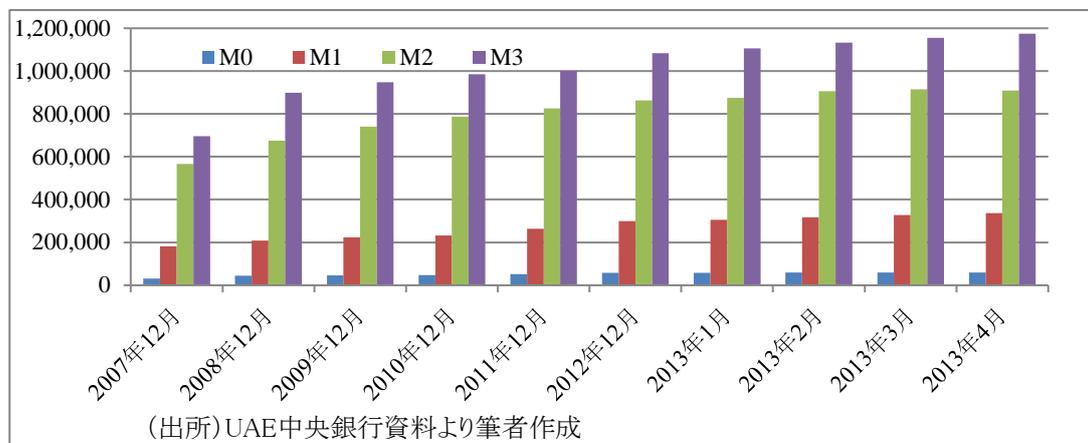


UAE 金融部門と金融規制強化の動向

好調に拡大する UAE 金融部門

2013 年前半のUAE金融市場は拡大傾向にあった（図 1）。マネーサプライM₂は 7.8%増加、M₃（M₂+政府預金）は 9.2%増加し、銀行貸出は 4.4%増加、銀行預金は 7.5%増加した¹。株式市場についても、2013 年前半にアブダビ証券取引所総合指数は 57%増値し、ドバイ金融市場総合指数も 55.5%上昇した。金融部門の拡大の要因は、UAE経済全体の成長²と周辺アラブ諸国市場の不安定から資金がUAE金融市場に逃避したことに加え、機関投資家によるUAE銀行株式への投資などが指摘されている（*The National* 紙 2013 年 6 月 6 日付）。また、銀行預金の増大には、政府の預金の増加が大きく寄与しており、マネーサプライの増加については高い原油価格に裏打ちされた政府系企業による債券発行の貢献が大きい（*Gulf Today* 紙 2013 年 6 月 27 日付）。

図 1 UAE のマネーサプライの推移（2007 年 12 月－2013 年 4 月、単位 100 万 AED）



消費者金融市場の盛況と低金利

金融部門活況の要因の一つとして国内消費の回復は無視できない。アブダビおよびドバイの

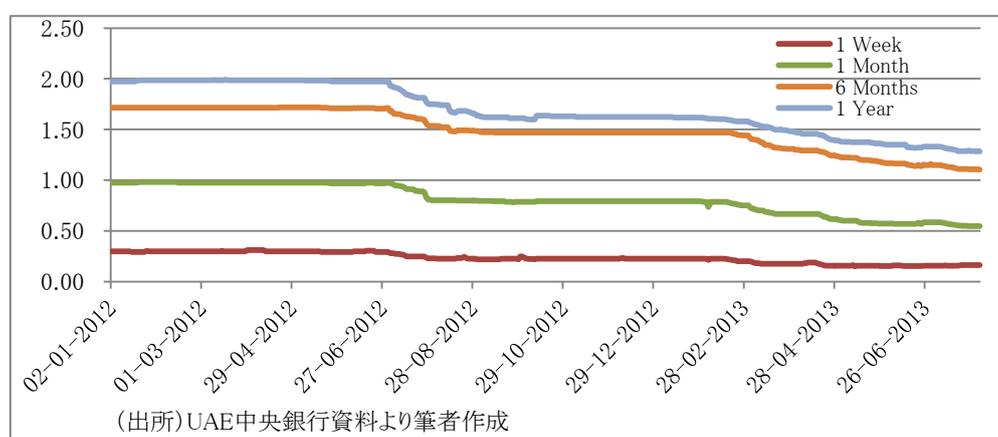
¹ 中央銀行の発表では、2013 年 5 月末のマネーサプライ M₂は、4 月末の 9,090 億 AED から 9,179 億 AED まで 1.0%増大し、6 月末には 9,298 億 AED へ月率 1.3%増加している。銀行預金は、5 月末に 1 兆 2,466 億 AED（前月比 0.4%増）、6 月末には 1 兆 2,556 億 AED（前月比 0.7%増）に拡大している。銀行貸出も 5 月末に 1 兆 1311 億 AED（前月比 0.8%増）、6 月末には 1 兆 1,474 億 AED（前月比 1.4%増）に拡大している。その結果、銀行資産は、5 月末に 1 兆 8,735 億 AED（前月比 0.4%増）、6 月末には 1 兆 8,781 億 AED（前月比 0.2%増）と順調に推移している。

² IMFによれば、2013 年の UAE の経済成長率は 4.3%と予測されている。非石油関連部門では、建築・不動産部門の回復と観光部門の成長の貢献が大きいと指摘されている。

市内大型店舗の高級品売場では、カード決済でショッピングを楽しむ消費者で活況を呈している。こうした国内消費の回復を金融面で支えているのが、消費者金融部門の拡大である。実際、UAEの銀行貸出のうち消費者金融貸出は2008年から2011年まで600-700億AEDの範囲で伸び悩んでいたが、2012年には812億AEDにまで拡大している（いずれも12月末数値、UAE中央銀行2012年3月5日、2013年3月17日発表）³。

UAE国内の消費意欲の増進とともに、UAE金融市場における低金利が消費者金融貸出の増加を後押ししていると考えられる。中央銀行は、2012年7月以降銀行間金利を段階的に引き下げてきたが、2013年2月以降さらに引き下げを行ってきた（図2）。銀行間金利の低下は銀行の貸出金利と預金金利を引き下げ、貸出金利の低下は借り手の資金調達意欲を増進する効果を持つ。

図2 UAE銀行間金利の推移（2012年1月～2013年7月末）



マクロ・プルーデンス規制と流動性規制強化の検討

こうしたUAE金融部門の活況に対しては、近年国内外からその危険性についての指摘がなされるようになってきている。IMFは今年7月の報告書の中で、UAEマクロ経済は、①不安定な石油収入、②米ドル・ペッグにより制限された金融政策の独立性、③景気循環と正循環的な財政政策といった脆弱性を抱えているために、マクロ・プルーデンス規制⁴が重要な役割を果たすと指摘した。また、UAEの銀行は資本力が強く、流動性危機に対してバッファーになると評価しながらも、さらなる銀行のガバナンス強化の必要性を強調した⁵。

³ 一方で、彼らの家計が長期的視野に立ったファイナンスを行っているかどうかについては疑問がある。新聞報道でもUAE住民の約8割が1年以上の視野で資金計画を行っていないと指摘されている（*Gulf News*紙2013年6月30日付）。UAE世帯の平均年間所得が45,000-50,000米ドルに対し95,000米ドルの負債を抱えており、所得に占める負債の比率は米国・EUよりも高いとの調査結果もある（*Arabian Business*誌2013年8月20日付）

⁴ 日本銀行によるとマクロ・プルーデンスとは、金融システム全体のリスクの状況を分析・評価し、それに基づいて制度設計・政策対応を図ることを通じて、金融システム全体の安定を確保するとの考え方で、2008年の国際金融危機以降、個々の金融機関の健全性を確保する「マイクロ・プルーデンス」と対比され重視されてきた。

⁵ IMF[2013] United Arab Emirates: Selected Issues, IMF Country Report No. 13/240, July 2013.

それに対してUAE中央銀行は、金融ショックに備え銀行のエクスポージャー⁶を制限するために、流動性規制強化を検討している（UAE中央銀行 2013年3月14日、8月4日発表）。流動性規制強化については、中央銀行がUAE国内の銀行に対し大口エクスポージャーの管理に関するアンケートを行ってきた（UAE中央銀行、2013年4月9日発表）。この動きは、バーゼル銀行監督委員会（Basel Committee on Banking Supervision ; BCBS）が、2013年3月26日に公表した市中協議文書「大口エクスポージャーの計測と管理のための監督上の枠組（Supervisory framework for measuring and controlling large exposures）」に対応するものである。一人の受信者又は関連性のある受信者のグループの突然のデフォルトを原因として銀行が重大な損失を負うことを防ぐことが本枠組の目的である。しかし、UAE銀行連盟は、政府に対して新規制のための5年間の猶予と、債券とスークを対象外とするよう陳述を提出するなど銀行改革に反対の立場を表明するなど調整には今しばらくの時間を要する見通しである（UAE中央銀行 2013年7月21日発表、*MEED* 誌 9-15 August 2013, pp.14.）。

おわりに

国際金融危機とドバイショック以降、調整過程にあった UAE の銀行部門は、アブダビの銀行とドバイの銀行で回復のスピードには差があるものの、今年に入ってから回復基調にある。アブダビ基盤の銀行は、国際金融危機とドバイショック後から、株価を急速に回復してきている。それに対し、ドバイ基盤の銀行については今年に入ってから回復がみられるものの、アブダビの銀行と比較するとその速度とボリュームに違いがみられる。

本稿で指摘したようなマクロ・プルーデンス規制は、UAE金融システム全体の健全性を高める効果を持つため、中長期的にはUAEの銀行部門にとって歓迎するべきものである。資産規模が大きく規制に対する対応に余裕がある豊富なアブダビの銀行にとっては、この新規制導入に対する抵抗は小さいだろう⁷。むしろアブダビの銀行は新規制の下で銀行の健全性を向上させ、さらなる市場開拓とパフォーマンス増加のための好機となりうる。アブダビの銀行は改善された健全性を市場への正のシグナルとして、より優良な貸出先を顧客とすることができ、投資収益の高い優良顧客からより安全に資金を回収できるためである。

一方で危機によるダメージからようやく回復しつつあるドバイの銀行にとっては、これらの新規制がパフォーマンス回復の妨げになることが予想される。資金力のあるアブダビの銀行とは異なり、銀行資産規模に対する新規制に対するコストは高くなる。回復過程にあり資金が不足しているドバイの銀行にとっては、規制対応コストの存在が新たな顧客獲得と貸出金の確保を妨げうる。

言うまでもなく UAE におけるマクロ・プルーデンス規制の導入は進行中のマターである。これらの規制導入に対し UAE 銀行がどのように対応し、規制導入後に銀行市場がどのように変化するかについては、今後も継続的な観察が必要である。

(2013年8月21日脱稿、齋藤純)

⁶ 金融取引でリスクにさらされている投資や信用供与等の金融資産額。

⁷ *Bankscope* データベースによる筆者の試算では、2012年末のアブダビ基盤の銀行12行の平均資産額は203億米ドルに対し、ドバイ基盤の銀行14行の平均資産額は121億米ドルである。